

「バディシステム」を取り入れたオンライン授業の 設計と実践（１）

～保育者養成科目の授業実践を通して～

権 藤 眞 織

Practice and Design of Learning Materials Using the Buddy-System to
Support Online Lessons in Nursery Teacher Training Facility

Maori GONDO

要 旨

オンデマンド型オンライン授業で、学生の学習活動の活性化を目指して、バディシステムを導入した。急遽、実施することになったオンライン授業では、それぞれの学生が自分のペースで実施できるという利点がある一方で、パソコン画面に向き合って、学びが自己完結しがちとなり、孤独に学ぶことにもなった。保育者養成課程においては、従来からグループワークや模擬保育など、人と関わりながら学ぶことに重点を置いてきた。そこで、学生が二人一組のバディとなって、対面あるいはリモートで交流しながら学ぶ「バディシステム」を導入した。その結果、授業後の学生アンケートでは、肯定的な評価となり、授業の学びの深さにポジティブな影響を及ぼしたことが示唆された。加えて、学習面では、新しい発見や気づきを促したり、協力体制、また、気力ややる気などメンタル面でのサポートなど多面的な効果が報告された。

キーワード：バディシステム、保育者養成、アクティブラーニング、オンライン授業

I. はじめに

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、従来実施してきた対面授業の開講が困難となり、多くの大学でオンライン授業を導入せざるを得ず、その効果の実証的な検証を行う間もなく、実施が余儀なくされた。オンラインによる講義では、Zoom や Teams のテレビ会議システムなどを活用した同期型オンライン授業と、非同期型（オンデマンド）オンライン授業に大別されるが、いずれも、授業内容を理解することに加えて、情報シ

ステムのしくみの把握と操作など、学生および教職員に多大な負担がかかることとなった。秋学期になっても、全面対面授業の再開は困難で、多くの大学で、オンライン授業との併用を余儀なくされたが、学生はこの状況に理解を示す一方で、オンライン授業の継続を望む学生は過半数となったが、この結果は、調査大学による変動もあり、また、授業の学びの質によるものと感染リスクへの対応など複雑な要因があるようだった（文部科学省、2020）。

近年、教育分野では、質の転換がなされ、文部

科学省によりアクティブラーニングが推奨されてきた。そのような流れの中で、このコロナ禍では、対面授業で実施されてきたさまざまなアクティブラーニングの手法を実施することが困難となったが、オンライン授業でもグループワークや協調学習、相互作用型授業など、工夫を凝らした実践も報告されている（白石，2021；久保，2020；青木，2020；植松，2020）。

そこで、本稿では、オンデマンド型のオンライン授業で、アクティブラーニングの要素を含み、学生の学び合いを少しでも活性化し、仲間同士学び合えるシステムとして、バディシステムを導入し、探索的に実施した。一般に、「バディシステム」とは、安全にダイビングを行うための基本ルールとして知られるが、バディと呼ばれるパートナーと必ず２人組となって潜水活動に従事し、連携・協働しながらお互いの安全を守るシステムとなっている（レジャーダイビング認定カード普及協議会，1994）。教育の分野でも、この「バディシステム」のアイディアを活用した取り組みが報告されており、「バディシステム」を導入することで、実技教科で教え合いを活性化することが示された（中西，2011），社会的スキルや人間関係の構築に影響を及ぼすことが報告されている（橋本，2013；松本，2016）。本稿では、受講生が、二人一組のバディとなり、課題に取り組むという方法で実施した実践事例を報告する。

Ⅱ. 「保育内容（人間関係）」： ２年次開講の授業の概要と 教育目標

授業の目的は、「さまざまな事例やVTR視聴をし、また、今までのボランティア体験など子どもと触れ合った経験など、具体的なイメージを用いてグループディスカッションも行いながら、領域人間関係の理解と実践を学ぶ。」となっている（2020年度シラバスより）。

また、到達目標は、「激変している現代社会の多様な人間関係の中で育っていく子どもたちにとって、人間形成の土台を築く乳幼児期の関わりは重

要だ。幼児教育者として、子どもの人間関係における発達過程と、子どもが園生活において主体的かつ意欲的に遊び、学ぶ過程を理解し、そのプロセスに即して、具体的な支援や指導を行える実践力を身につける。」となっている。

テキストとして、保育所保育指針や幼稚園教育要領に加えて、保育雑誌「保育とカリキュラム」（４月号）を指定した。また、夏休みと秋学期に、保育実習Ⅰ（保育所）および保育実習Ⅱ（施設）をすでに履修していたことから、各自が作成した「実習日誌」を教材として用いた。ほかに、保育場面を記録した動画「わすれてできる？～友達と先生の暮らしづくり～」(1997) も用いた。学習ガイドとして、ワークシートを作成し配布した。

Ⅲ. 取組み

オンライン学習のプラットフォームは、マイクロソフトのOffice365であった。主に、授業のアナウンスにはTeams、課題の提示や提出にはTeamsおよびForms、解説動画はZoomで撮影録画し、Streamに配信して共有した。秋学期には、一部対面授業を実施しており、学生も登校しているので、授業の最後に、作成したワークシートを印刷して提出することとした。

従来の授業では、自作のワークシートを活用して、グループワークを中心に授業を設計し、実践してきたが、オンライン授業でオンデマンド型で実施するため、実践方法を修正した。夏季の実習期間の保育所訪問の様子から、実習場面では、マスク等の着用や感染対策などを行いつつ、コロナ以前の従来の子どもとの学びを体験している様子がわかったので、学生たちの実習体験を教材として、自らの「リアルな学び」をもとに、保育内容（人間関係）を学べるように設計することにした。対面授業がゼミのほかには、あまり多くないとのことであったので、バディとの対面のやり取りが、コロナ前のような休み時間に声を掛け合うなどもやりにくく、また、LINEやTeams、Zoomを活用したリモートの交流も、通学時間や生活時間の

多様性から困難であることが予想された。そこで、課題を授業回が進むにつれて順次提示していく方法ではなく、全体像として、どのような課題があるのかを示し、バディで話し合いながら、各バディで取り組みが進めやすいものから、学習して課題を完成させる形をとった。学習ガイドとして、ワークシートを作成し用いていたが、オンライン授業ということで、より保育現場のイメージを持てるように、保育雑誌「保育とカリキュラム」（4月号）も指定した。加えて、自分の実習日誌をコピーしておき、教材として活用することを、授業開始前にアナウンスした。また、課題の回答を、クラス内で公開しシェアするようにした。その際に、実名での公開には抵抗を感じる学生が多かったので、NetID ネームという仮名を作成し、公開用のファイルに仮名を記載し、クラスで共有することとした。これらのシェアリングのファイルも、教材として活用した。

【バディ制度】

予め、バディ（2人組）を組むこと、バディは、原則2名であるが、3名でも可とすること。また、毎週確実に対面で会うことができるゼミの友達を中心にバディを組むが、ゼミを超えて、同学年の保育コースの友達と自由にバディを組んでよいこともアナウンスした。

「バディシステム」を取り入れるにあたって、このコロナ禍では最も配慮すべきは、感染対策であった。大学でも一部対面授業を実施しているが、二人組などの少人数とはいえ、感染のリスクはゼロではない。バディとの学び合いは、バディ同士で話し合い、①対面で実施するか、②リモートで実施するか（動画通信、電話、メールやチャットなど）柔軟に実施する旨を伝えた。さらに、授業の初回に感染対策のアナウンスをするともに、クラス全体へのアンケート型の課題として、①どんな感染リスクマネジメントを行っているか、②わかってはいるが気が抜けてしまいがちなこと、③自分たちバディのルールや工夫について、各学生の意見やアイデアを求め、その回答をクラスでシェアし、意識づけを行った。

【学習コンテンツ】

- ①オンライン授業でも、よりリアルに学ぶため、自分自身の「実習日誌」と「保育場面の動画『わすれてできる?』（岩波、1997）」を活用した。
- ②バディ制度を導入して、学生間の学び合いを活性化できるように授業設計をおこなった。
- ③学習のガイドとしてワークシート教材を作成し、使用した。
- ④「領域カード」の作成（保育内容のねらいと内容を一覧表にカスタマイズしたカード）
- ⑤その他：

- ・バディで学習を進めるため、協力したり連携したり、チームワークについて工夫・実践。
- ・取り組み方、ワークの提出と成績、プレゼン動画のやり方など、クラスで出会った学級経営に関する事柄。

授業が終了したのち、授業全体の振り返りおよびアンケート実施した。

IV. 実践結果

（1）実施状況：科目および受講生

①科目名：保育内容（人間関係）②2回生幼児教育学コースおよび保育士コース98名（前半クラスと後半クラスの2クラス体制で実施）。

（2）学生の様子

2年生は、バディが組めなかったということもなく、スムーズにバディを組み、また、3人で取り組むことや、授業が進むにつれて、バディを変えたりすることなど、自分たちで取り組み方を提案して、工夫して学んでいるようだった。一方で、一つ一つの課題やワークシートの提出期日を設けていなかったため、締め切り日が確定している課題が優先されたのか、進捗状況が遅い学生も散見された。学生自ら、「自分たちでペース配分をしながらだと、なかなかうまく取り組めない」「バディとスケジュールが合わせにくく、すすめていく」との声もあった。

Table 1 のように、課題が構造化されており、関連しているので、自分たちで考えながら取り組む必要があり、教員からの解説（Teams の「投稿」での説明や動画教材：パワーポイントなどの

資料を作成し、Zoom で解説動画を録画して配信）だけでは、理解が十分できない学生もいたようであったが、バディと相談しながら、支え合って取り組んでいる様子も見られた。

Table 1 課題の一覧表

保育内容（人間関係）秋学期の学習内容：全体図（2020/11/26～12/7 配信）

	実習日誌から学ぶ	動画「わすれてできる？」から学ぶ
ベーシック Level	Step 1 日誌の自己評価 Step 2 日誌の他己評価 Step 3 「子どもの活動」欄の分析と考察 ～領域「人間関係」の観点から～	Step 1 動画の視聴 Step 2 日誌に書いてみる Step 3 動画再視聴：「子どもの姿」の分析と考察 ～領域「人間関係」の観点から～
アドバンス Level	Step 4 「配慮」の欄の分析と考察 ～領域「人間関係」の観点から～ Step 5 「考察」のページの文章の分析と考察 ～自分の文章の特徴と傾向～	Step 4 「子どもの活動」欄 再チェック♪ ～領域「人間関係」の観点から～ Step 5 「ねらい」「内容」「配慮」再チェック♪♪ ～指針・要領の示す保育とあなたの保育～

（２）振り返りアンケート結果

授業終了後、マイクロソフト Office365 の Teams の課題にて、Forms で作成した授業の振り返りアンケートを配信した。回答は任意とした。回答数は、前半クラス（50名）：26名（52.0%）、後半クラス（48名）：28名（58.3%）、学年全体では、55.1%の回答率であった。アンケート配布時期が、春休みに入っていたこともあり、回答期限を過ぎてから、気づかなかった、Teams を見ていなかったとして、回答する学生もおり、振り返りアンケートの周知が徹底されていなかったようだ。

①バディ制度による学習について

学生のバディ制度を取り入れた学習についての評価は、「とても学びが深まった」が23名（42.6

%）、「まあまあ学びが深まった」が22名（40.7%）、「どちらかといえば深まった」が2名（3.7%）と、ほとんどの学生が、効果的な学習方法であったと感じたようだった（Table 2）。

②バディ学習の方法と頻度について

バディ学習の方法については、対面で行うことが多いようであったが（31件）、リモートによる方法も（49件）活用していた（Table 3）。

バディとの学び合いの頻度は、授業のペースと同様、週に1度ぐらいの交流が、28件と、全体の約半数となった。週に2、3回もやり取りを行った学生も11名となった。一方で、2週間に1度程度（8名）、3週間に1度程度（1名）など、2割程度の学生が、十分な交流ができていなかった。

Table 2 バディ学習の評価

バディ学習の学びが深まった

	とてもそう思う	まあまあ そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらでもない	どちらかといえば、 そう思わない	あまり そう思わない	全くそう思わない	
件数	23	22	6	2	0	0	1	54
割合	42.6	40.7	11.1	3.7	0.0	0.0	1.9	100.0

Table 3 バディ学習の方法と頻度

「バディとの学び合い」の方法・手段（複数回答）	件数	「バディとの学び合い」の頻度	件数
だいたい、いつも、直接、対面して行った	5	週に2, 3回、やり取りした	11
対面して行うこともあった	26	週に1回程度やり取りした	28
たいていLINE電話やTeamsの通話などで話をした	14	10日に1回程度やり取りした	4
LINE電話やTeamsの通話などで話をすることもあった	6	2週間に1回程度、やり取りした	8
たいていLINEやチャット、メールなどで、情報交換した	19	3週間に1回程度、やり取りした	1
LINEやチャット、メールなどで、情報交換することもあった	10	その他	2
その他;	1		
Total	81	Total	54

③学生が感じたバディ学習の効果

バディ学習の効果として学生が感じたことについて自由記述を求め、その結果をコメント内のキーワードを手掛かりにして、KJ法によりカテゴリに分類した。その結果、「一人で学ぶより、バディと学ぶことで、多角的な視点から学びを深めることができた」など新しい発見や気づき、学習の深まりを感じた例が26件、「仲間と協力してやることの大切さがオンラインでも感じる事が出来た」など協力や教え合いができたことを指摘した例が12件、「バディがいたから課題など心強かった」など気力・やる気などメンタル面でのサポートを感じた例が6件、「久しぶりにたくさんの意見交換ができて学びになった」意見交換や意見共有による学びを指摘した例が5件であった。以上のようにさまざまな学びの効果を実感できたようであったが、その一方で、「時間が合わないことも多かった」「バディとの学習のスピードや、熱量に差がかなりあると感じる」などバディ学習をすることで困ったことや課題を感じた例が8件あった。

さらに、『バディシステム』を学びの方法として取り入れる際の配慮点や課題、問題点」として自由回答を求めた結果では、バディと共に学ぶ時間の確保や調整について課題を感じたとのコメントが7件、対面授業が必要など、対面を求めるコメントが5件、バディの課題の取り組み姿勢やペースによって、課題の進捗に影響を受ける、逆に、バディに頼りっぱなしになるなど、バディとの相

性や人間関係上の課題を述べたコメントが4件、頻繁に連絡を取るなどバディとの協力が必要と述べたもの3件、感染対策について2件あった。積極的に「特になし」が8件で、無回答が37件であったので、いくつかの課題や問題点もあったが、大きな混乱はなく、実施できたのではないかと評価できた。

④授業全体の学びの程度へのバディ学習の効果の検討

アンケート結果から、全般的に「バディ学習」は、非同期型のオンライン授業で効果的な学習方法であったと考えられるが、授業全体の学びに対して、どのように捉えられているか、分析を試みた。授業全体の学びの深さについての振り返りコメントにおいて、「バディ学習」を言及しているケースを抽出した（Table 5）。その結果、学習の学びが深まったと感じている学生のコメントに、「バディシステムでは自分とは違う考え方や発見に気づくことが出来たため学びを深めることができた。」や「バディとのワークでコミュニケーション力をつけることが出来た」などバディ学習を言及する事例が、9件見られた。

次に、授業全体の学びの深まりの程度と、バディ学習の学びの深まりの程度をクロス集計すると、授業全体の学びの深まりが大きい学生は、バディ学習の学びの深まりも大きい様子が見られた（Table 6）。

Table 4 学生が感じたバディ学習の効果（複数回答）

カテゴリ	件数	コメント内容
新しい発見・気づき・深まり・刺激を受ける	26	<ul style="list-style-type: none"> ・バディの意見がたくさん聴けて、刺激を受けて学びを吸収できたから。 ・一人で学ぶより、バディと学ぶことで、多角的な視点から学びを深めることができたから。 ・自分だけでは気付くことのできない発見や新しい学びに繋がったから。 ・自分の気付かなかったことに気付いたり、新しいアイデアや考えを知ることができたからです。
協力・教え合い・わからないこと確認	12	<ul style="list-style-type: none"> ・バディと協力しあって学習することでわからないところなどを教えあってできたりしたのでよかったです。 ・質問したりして対面より会話をする機会が多く学びが深まったと思います。 ・仲間と協力してやることの大切さがオンラインでも感じる事が出来たから。 ・友達と確認したり質問し合ったりできたから。
困ったこと・課題	8	<ul style="list-style-type: none"> ・時間が合わないことも多かった ・電話などではできない上に、授業でも会うことが少ない子としかバディを組むことができなかったのも、なかなか課題を進めるのが難しかったため。 ・課題の相談事があれば気軽に聞けたので良かった。しかし、今課題を進めたいのにバディのコメントがないと終わらず連絡が遅いと困るときがあった。
気力・やる気・心強い	6	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業の中でも誰かと共に行うことで、課題に取り組む気力が湧いた。 ・バディがいたから課題など心強かったし、一人でするより友達とした方がはかどったから。 ・バディとすることでやる気が出たから。 ・自分には無い考えを知れたり、自分の考えになるほどと納得してもらうことで、自己肯定感が高まって、学びに意欲的に取り組めるようになったと感じたから。
意見交換 /意見共有	5	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業になってから意見交換はあまりしなくなったので、久しぶりにたくさんの意見交換ができて学びになりました。 ・意見交換をすることができたから。 ・相手の意見やアドバイスも学びにつながったから。 ・バディ制度のおかげで共有することで自分の学びが更に深まるということに気づくことが出来ました。
無回答	4	
Total	61	

Table 5 授業全体の学びの深さへのバディ学習の影響

授業全体の学びが深まった

	件数	バディに 言及した 件数	コメント内容
とてもそう思う	20	4	<ul style="list-style-type: none">・バディ制度では自分とは違う考え方や発見に気づくことが出来たため学びを深めることができた。・バディと協力して授業に取り組むことができたから。・バディとの取り組みを通して学びを深められたから。・バディと一緒に意見交換などをして、保育に関することを共有することができたから。
まあまあそう思う	24	5	<ul style="list-style-type: none">・バディと学びを共有できたため・バディと協力することで、学びを深めることができたから。・ビデオを見て学んだり、バディの意見も聞くことができて、多くの面からの学びがありました。・バディと協力しながら課題をこなすことで、違った視点から考えることができたから・バディとのワークでコミュニケーション力をつけることが出来たのと、子どもたちの人間関係についてよく考える機会が増えたからです。
どちらかといえば、 そう思う	8		言及なし
どちらでもない	2		言及なし
どちらかといえば、 そう思わない	0		-
あまりそう思わない	0		-
全くそう思わない	0		-
Total	54		

Table 6 授業全体の学びとバディ学習の学びの比較

	(件数)	バディ学習の学びが深まった						Total
		とてもそう思う	まあまあ そう思う	どちらかとい えば、そう思う	どちらでもない	どちらかといえ ば、そう思わない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
とてもそう思う	13	5	2	0	0	0	0	20
まあまあ そう思う	9	11	3	1	0	0	0	24
どちらかといえば、 そう思う	0	6	1	0	0	0	1	8
どちらでもない	1	0	0	1	0	0	0	2
どちらかといえば、 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
あまりそう 思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
全くそう 思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
Total	23	22	6	2	0	0	1	54

V. 考察

今回の取り組みでは、オンデマンド型のオンライン授業で、学生同士の学び合いの活性化やパソコンが苦手な学生に対しても、学生同士の助け合いを促す一つのきっかけとして「バディシステム」を導入したが、以上のように、「バディシステム」は、効果的に作用していることが観察された。一方で、バディと学習のペースがうまく合わない場合は、取り組みが遅れたり、学びにくさが増すことも指摘された。また、今回の事例となった科目は、授業回数か7, 5回となっており、通常の15週の授業の半分の回数となっている（実習カリキュラムと並行して進めるため、1週に2コマ分の授業を開講し、授業期間を短縮している）。そのため、バディとの学び合いという学習方法に慣れるのにも時間が必要であったと考えられ、やっと慣れたところに、授業が終わってしまうという状況になってしまった。今回の授業では、すべてオンデマンド型（非同期）のオンライン授業であったが、授業の中盤に、一度同期型のリモート授業や、ブレンド型として対面授業を設けるなど、学生の学びの現状の把握や困難さ、誤解している部分を直接捉えたり、質疑応答を行って、学習支援や修正

ができれば、オンデマンド型授業の学習効果をより高めることができるのではないかと考えられた。

養成教育カリキュラムにおいても、オンライン授業が一定の効果を持つことが報告されており、知識の習得のみならず、教育実践に求められる考え方や技能、コミュニケーションスキルの習得にむけて、オンラインツールの操作性、実施手順の煩雑さなどオンラインによる負担が増えないよう配慮が必要との指摘もある（米津, 2021）。今回の実践では、バディでの学習活動に、従来の対面授業で行うグループワークの所要時間以上の時間を確保するため、課題の取り組み期間を通常の2から3倍程度、長期間に設定し、複数の課題をまとめて配信した（Table 1）が、それによる混乱も生じていたようだった。

今回の実践では、オンデマンド型オンライン授業で「バディシステム」を取り入れることで、学生同士の学び合いを促し、学びを深めることが示唆された。また、ブレンド型授業の必要性和可能性を実感することができた。本稿では、実践の報告にとどめるが、今後学生の学習内容、ワークシートや他の提出物などを分析し、オンデマンド型のオンライン授業の効果的な教授方法を検討し、今後の授業に応用していきたい。

参考文献

- 青木成一郎，小林信三，植木隆彦，岡本敏雄（2020）
「デジタル Diamond Mandala Matrix を用いた宇宙における農業を題材とする協調学習型オンライン授業の実践例と分析」情報教育シンポジウム論文集，106-113
- 岩波映像(株)（1997）「わすれてできる？～友だちと先生の暮らしづくり～」文部省選定 教育映像祭優秀作品
- 植松晴子（2020）「大学におけるオンラインでの相互作用型授業の実践」物理教育 68(4)，289-291
- 久保裕也「オンライン授業における協同学習の支援」CUC view & vision (50)，52-63，2020-10-31
- 白石智子，若園雄志郎（2021）「地域デザインに必要とされるスキル養成科目の効果と課題ーオンラインでのアクティブ・ラーニング実践を通じてー」地域デザイン科学：宇都宮大学地域デザイン科学部研究紀要（9），51-58
- 中西匠，松本裕史（2011）「大学スキー実習における学習者間の教え合いの活性化ーバディシステムの導入とリフトでの学習カードの活用ー」健康運動科学 2(1)，45-53
- 橋本公雄，西田順，内田若希（2013）「バディ・システムと行動変容技法を用いた人間関係の醸成を促す体育実技授業の試み」熊本学園大学論集「総合科学」 19(2)，363-382
- 松本裕史，中西匠，西田順一，柳敏晴（2016）「バディシステムを用いたスキー実習が女子大学生の社会的スキルに及ぼす影響：問題解決因子およびコミュニケーション因子の変化に着目して」健康運動科学 6(1)，23-29
- 文部科学省（2021）「大学等における後期等の授業の実施状況に関する調査（令和2年12月23日）」
- 米津直希，宇田光，五島敦子，笹尾幸夫，大塚弥生（2020）「教職課程カリキュラムの実施における現状と課題：オンライン授業の実践交流を手掛かりに」南山大学 教職センター紀要（6），31-36
- レジャーダイビング認定カード普及協議会「Cカードの基礎知識」<http://www.c-card.org/divingguide/index.html>（2021年2月15日）